

暑いのか寒いのか、不思議な夏でしたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

5月に行われた「チェンバロの日・2014」には多くの方にお越しいただき、ありがとうございました。
その際に総会も行われ、小林会長及び新しい運営委員の体制のもと今年度の活動を始めております。

まだまだ当協会が、どのような役割を果たしていけばよいのか、
どのような活動をするのが、日本や世界におけるチェンバロの普及に貢献できるのか、
どのような役割分担であれば長続きする組織になるのか、
という根本的な模索を続けながらの活動ですが、
できることを一歩ずつ進めてまいりたいと思っております。

ぜひ会員の皆様のお知恵、お力を協会にもお貸してください。
メールやお電話等でのご意見や、運営委員会を見学してみたい、
なにか手伝いたいという方も大歓迎ですので、ぜひ事務局までご連絡ください。
次の世代のために、自分たちが今できることを少しずつ積み上げていきましょう。

今年度もどうぞよろしくお願いたします。（副会長：大塚直哉）



🎹 日本チェンバロ協会のプロフィール 🎹

日本チェンバロ協会は、以下の様な体制で活動しております。
この会報では、そうした活動報告や予定等を紹介して参ります。

組織

2011年10月発足、会員数約200名
会長、副会長、運営委員（7名以上）、監事
（現運営委員は、副会長を含めた16名）

会期

第一期 2012. 7/1~2013. 6/30
第二期 2013. 7/1~2014. 3/31
第三期 2014. 4/1~2015. 3/31

会議

通常総会（年1回）、運営委員会議（約月1回）

行事

チェンバロの日（年1回）、例会、通奏低音講座等（随時）

報告

ホームページ更新、メールマガジン配信（随時）
会報（年2回）

🎹 日本チェンバロ協会会長選挙の実施について 🎹

小林道夫・現日本チェンバロ協会会長の任期満了に伴い、**新会長を選出する選挙**が実施されます。
正会員からの推薦を得た候補者に、郵送により票を投じるという方式によって行われます。
（ただし投票権は、2014年4月1日の時点で正会員であった方のみに限ります）

2015年1月8日に候補者の推薦を依頼する記事が協会ホームページその他に掲載されますので、
その際に推薦の方法などの詳細をどうぞご確認ください。**開票は4月1日**です。

2年に一度の大変重要な行事ですので、ぜひ会員の皆様のご理解・ご協力をお願いしたいと思います。

（選挙管理委員：伊藤一人）

🎹 第3回通常総会報告 🎹

去る2014年5月5日10時より、世田谷の松本記念音楽迎賓館Cホールにおいて、日本チェンバロ協会の第3回総会が実施されました。昨年8月4日に行われた第2回総会から一年を経過せずに実施されることになりましたが、これは5月の主催事業「チェンバロの日！」の恒例化にともない会期の開始時期が移行した為です。総会をこの主催事業の一環として実施することで、多くの会員の参加が見込め、会計などの事務処理も行い易くなる等の理由から、今期から基本的に総会を主催事業の開催に合わせて実施することで、運営委員の考えが一致しました。

なお出席者は17人、委任状の提出が46通で計63名分となり、総会成立の条件を満たす(正会員113名の1/3以上)ものになりました。

大塚副会長の開会の辞に続いて、運営委員から議長“岡田”、書記“渡邊(温)”が選出され、直ちに審議に入りました。

- 1 2013年度 活動報告
- 2 2013年度 決算および会計監査報告
- 3 2014年度 事業計画
- 4 2014年度 予算
- 5 会則改正案について
- 6 会長選挙について

1-1：前年度の主催/共催活動の報告（加久間委員）

- a. 第2期会長、副会長、運営委員などを選出した総会
- b. 第3回例会・演奏と交流会「A.ハッキネン氏を迎えて」
- c. 第4回例会「R.コーネン氏を囲んで」
- d. 第5回例会 in 名古屋「秘密のチェンバロ SHOW」
- e. 第6回例会「調律講座」
- f. 第7回例会「浜松楽器博物館見学」
- g. 第8回例会「フリーコンサート」
- h. 第9回例会「タッチについて」
- i. 通奏低音講座/理論編
- j. 通奏低音講座/実践編
- k. 第3期の主催事業「チェンバロの日！2014」の準備

1-2：協会運営の報告（加久間委員）

- a. 運営委員会の発足と月一回の運営会議
- b. 会報の発行
- c. 会の所在地の変更
- d. HPの委託から会員への移行
- e. 事務局の委託から会員による運営への移行
- f. 会長選挙に向けて選挙委員会の発足
- g. 会員名称と会則の変更の検討

2：会計を担当した小川委員より、昨年度の一般会計の収支決算報告がなされ、それが監査担当の伊藤氏より承認された旨、出席者により了承されました。

3：大塚副会長より、「チェンバロの日！2014」の開催、東北での例会の開催、その他、5回程度の例会の実施、「チェンバロの日！2015」の企画・準備等の案が提示されました。

また協会の運営として、運営委員による月一回程度の委員会の実施と、いくつかのチームに分かれて運営を円滑に行うプランが示唆され、同時にHPやFacebook, Twitter等を利用した情報発信、会報の発行等の広報活動の充実等にも言及がありました。さらに会員数の拡大、東京以外での例会開催の際の補助金、会長選挙の実施、運営委員以外にもオブザーバーという形で会員に協力を要請といった案件についても報告されました。

4：副嶋委員より、前年度の繰越金と会費収入を元に、来年度の予算案が提示され了承されました。

5：大塚副会長より、“第6条の会長の任期の規定を見直し、連続での再任を2期4年としてはどうか”という点と、“第7条の運営委員会の構成と運営委員の再任に関する規定を修正してはどうか”という二点が提議され、いずれも出席委員によって了承されました。

6：大塚副会長より、来春に予定されている選挙の現準備段階を踏まえ、管理委員によって作成された規定に基づいて選挙管理委員会、会長候補者の推薦、会長の選出、選挙権、無効票の扱い、選挙結果の告知等の項目に沿って説明がなされ、委員の了承を得ました。

最後に今年度の運営委員が発表され、新たな顔ぶれによるスタートを確認、副会長の閉会の辞を以て無事一時間半ほどの第3回総会を終えました。

発足以来3度目の総会を機に、あらためて協会の態勢が少しずつ整ってきたのを実感しましたが、会員相互の協力のもと、更なる充実を目指して前進していければと思っております。

(運営委員：岡田龍之介)

🎹 「チェンバロの日！2014～チェンバロと仲間たち～」報告 🎹

日時：2014年5月5, 6日
場所：松本記念音楽迎賓館

ゴールデンウィーク最後の2日間、東京・世田谷の松本記念音楽迎賓館にて開催された主催行事は無事に終了致しました。第1回(2012年)はチェンバロ奏者第1世代に焦点を当て、第2回(2013年)は日本の製作者によって作られた多種多様のチェンバロをクローズアップしました。

そして第3回目となる今年はチェンバロと、その仲間たちとして発音システムの異なる様々な鍵盤楽器が集められ、合わせて11台の楽器それぞれの音色を体感し、可能性を探る発見、交流の場として充実した催しとなりました。

メイン会場の松本記念音楽迎賓館では、2つの部屋に数台ずつ楽器を展示して、それぞれチェンバロ奏者による演奏会、楽器説明、試奏タイムが設けられました。愛好家等によるフリーコンサートも開催し、また別の部屋ではグレン・ウィルソン氏のマスターコースが同時進行で行われました。館の奥まったところにあるCホールでは故百瀬正二氏スピネット1号機及び資料の展示、物販(アカデミア、ユニバーサル)も行われ、サロンではSPレコード鑑賞、日本クラヴィア協会代表・宮本とも子氏のレクチャーなど多面的に展開できました。

さらに日本式庭園にあるお茶室では新緑まぶしいお庭を眺めながらお菓子と抹茶を味わうサービス（先着 30 名・有料）を館側でご用意いただき、安らぎの場となりました。

またメイン会場から徒歩 12 分のところに世田谷区有形文化財に指定された旧小坂家住宅があり、そこでも楽器展示がなされて、チェンバロ製作家デュコルネ氏講演、ミニコンサート等が行われました。

第 1 日目の最後は楽器ガイドとして、チェンバロの仲間たちであるクラヴィツィテリウム、クラヴィコードなど歴史的なお話と演奏で各部屋を回り、その後に懇親会が催されました。

第 2 日目はチェンバロ・メンテナンス講座で幕を閉じました。チェンバロを囲んで様々な楽器や人との交流を持つことで、楽器を取り巻く環境が良くなっていくことを願いつつ、ここにご報告とさせていただきます。

そして来年の“チェンバロの日！”の予定も決定しました！皆様とお会いできることを、心より楽しみにしております！

日時：2015 年 5 月 9,10 日
会場：松本記念音楽迎賓館

（「チェンバロの日！2014」担当委員：寺村朋子）



日本各地から集めた楽器達



世界的にも珍しい楽器がズラリ



マスタークラスで音楽に磨きをかけて



コンサートで音楽に酔いしれて



聴いて 見て 触って



あわや 酒池肉林？

🎵 イベント情報 🎵

🎵 上半期の報告 🎵

協会主催のイベントとして、2014年4月から9月までの間に、第10回例会「フランスのカンタータ&チェンバロ・フォルテピアノ マスタークラス」、通奏低音講座：実践編第2回「リコーダーとともに」が行われました。

第10回例会「フランスのカンタータ & チェンバロ・フォルテピアノ マスタークラス」は、4月26日（土）古楽研究会 Space 1F（板橋区）にて開催されました。

講師はアリーン・シルバライシュ女史（パリ高等音楽院チェンバロ教育科教授ほか）、マルタン・ジェステール氏（ストラスブール国立音楽院バロックオルガン・室内楽教授ほか）。

前半にフランスのカンタータについてのマスタークラスが、後半にチェンバロ・ソロのマスタークラスが行われました。受講者は前半2組・後半2名、聴講者は12名で、通訳は中山真一氏が務めました。



通奏低音講座：実践編第2回「リコーダーとともに」は、6月28日（土）、古楽研究会 Space 1F（板橋区）にて開催されました。

講師は廣澤麻美氏、共演者はリコーダーの深井愛記音氏。参加者は、受講者4名と聴講者6名でした。

この講座は、受講者が選んだ課題曲（抜粋）を深井氏のリコーダーとともに演奏し、廣澤氏がアドバイスをする、という形で進行了しました。



🎵 下半期の予定 🎵

協会主催のイベントとして、下半期には現段階で二つの例会の準備をすすめております。年末には東北で第11回例会を、年明けには東京で第12回例会を予定しております。

第11回例会 山形・仙台例会

日本チェンバロ協会は、初めて東北地方での例会を開催いたします。留学経験を持つ地元在住の3人のチェンバリストと2つの楽器製作工房の協力により、「チェンバロ」という楽器を間近で「見る・聞く・触れる」ことができる、多角的なイベントが実現いたしました！お近くにお住まいの方も、そうでない方も、奮ってご参加くださいませ。お待ちしております。

===山形===

期日：2014年12月6日（土）

会場：山形市七日町イタリア食材カフェ ピウボーノ『Più Buono』

入場料：1,000円 出入り自由、飲み物注文可（19:00からのトークコンサートのみ別料金2,000円）

ワンポイントレッスン受講：500円（1回15分、要予約）

15:00	開場
15:30-16:00	楽器製作者によるチェンバロの説明（木村雅雄氏）
16:00-16:30	ワンポイントレッスン ～チェンバロに触ってみよう～（梅津樹子氏）
16:30-17:30	チェンバロ自由試奏タイム
17:30-17:45	楽器製作者によるワンポイントトーク 「チェンバロの調律ってどうするの？」（木村雅雄氏）
17:45-18:15	ワンポイントレッスン ～チェンバロに触ってみよう～（梅津樹子氏）
18:15-19:00	調律
19:00-19:40	トークコンサート「コンチェルト・イタリアーノ～イタリアのチェンバロ音楽の楽しみ」（大石祥之氏） 入場料：2,000円 30席限定、ドリンク付
20:00	終了

===仙台===

期日：2014年12月7日（日）

会場：仙台市青葉区錦町 N'Oval ビル1F（当ビル内の2会場を使って開催）

入場料：2,000円（2会場とも終日出入り自由の共通入場料）

ワンポイントレッスン受講：500円（1回15分、要予約）

	第1会場	第2会場
13:00	開場	開場
13:30-14:30	楽器製作者によるチェンバロの説明（木村雅雄氏、林裕希氏）	楽器製作者によるチェンバロの説明（木村雅雄氏、林裕希氏）
14:30-15:00	チェンバロ ワンポイントレッスン（大石祥之氏、岩成玲子氏）	チェンバロ自由試奏タイム
15:00-15:30	閉室（コンサートのための調律）	チェンバロ自由試奏タイム
15:30-16:00	トークコンサート「バッハへの道のり」（梅津樹子氏） プレトーク ～チェンバロの調律について ピアノと違うの？～	閉室
16:00-16:30	チェンバロ自由試奏タイム	チェンバロ自由試奏タイム
16:30-17:00	閉室（コンサートのための調律）	チェンバロ ワンポイントレッスン （大石祥之氏、岩成玲子氏）
17:00-17:30	トークコンサート「ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロで奏でるフランス宮廷音楽」 プレトーク ～チェンバロの伴奏法 通奏低音って何？～ （チェンバロ：岩成玲子氏、ヴィオラ・ダ・ガンバ：田中孝子氏）	閉室
18:00	終了	終了

お申込み・お問合せ：山形／梅津樹子 電話：023-631-8598

メール：igatyanjp@yahoo.co.jp

仙台／岩成玲子 電話：080-1430-4402

メール：reiko629@gmail.com

第12回例会 ショセフ・ガショー氏 公開講座

期日：2015年1月10日（土）

会場：古楽研究会 Space 1F（東京都板橋区）

入場料：未定

米国・ミシガン大学チェンバロ科教授のジョセフ・ガショー氏による公開講座とリサイタルを計画中です。北米の演奏家は日本ではまだまだ知られていませんが、今回は中堅の実力派であるガショー氏をご紹介するとともに、彼の音楽に対する合理的なアプローチを学ぶ公開講座を開催予定です。この講座は、チェンバロ音楽について広く知りたい人や、これから始めようとする人、チェンバロを始めて日が浅い人に向けた公開講座となる予定です。詳細は追ってホームページやメールマガジンなどで情報を更新していきます。

ジョセフ・ガショー (Joseph Gascho) 氏 略歴

チェンバロ奏者・指揮者。ミシガン大学音楽学部教授。ソリストや通奏低音奏者として、またオペラや合唱指揮者として活躍する一方、楽譜の校訂や編曲・編集、CDのプロデュースなど、多方面で活躍する。ジョージ・ワシントン大学、アメリカン大学、ピーボディ音楽院、オーバリン大学バロック音楽研究所でも教鞭をとる。2002年ジュロウ国際チェンバロコンクール優勝を初め受賞歴多数。2012年にデビューCDを、また彼が率いるアンサンブル「ハルモニウス・ブラックスミス」のCDを今年中にリリース予定。これまでにナショナル・シンフォニー・オーケストラ（カーネギー・ホール）、ケネディーセンター・オペラ（ケネディーセンター）、タリス・スコラズ、フォルジャー・コンソート、ワシントン・バッハ・コンソート等と共演。オペラ分野では2013年、メリーランド・オペラ・スタジオにて「イドメネオ」、またジョージ・ワシントン大学にて「ティドとエネアス」のプロデュースと指揮を行う。メリーランド大学修士課程、ピーボディ音楽院博士課程修了。



お申込み・お問合せ：日本チェンバロ協会

電話：080-9661-8196（火曜日10時～19時のみ）

メール：info.ronron@gmail.com（例会係）

（件名に“12回例会”とお書き下さい）

チェンバロ協会の会報第2号で、加久間朋子氏がランドフスカの自筆サイン入り写真に言及されたのを受けて、今回は彼女の音楽論集のことを取り上げたいと思います。

ランドフスカの音楽論集(邦訳は故鍋島元子氏・大島かおり氏の共訳でみすず書房より刊行)と記しましたが、正確には彼女が様々な機会に書き記した音楽に関する文章を、彼女の高弟にして彼女の死に至るまでの26年間身近に接したドゥーナー・レストゥウ女史が一冊の本に編んだものです。

この本が上梓されるまでの、ランドフスカとロストゥウの興味深いやり取りの様子が本書の冒頭、「ランドフスカについて」と題された前書きに記されていますが、チェンバロ復興の原動力となったパイオニアの考えを伝える本書の意義は、やはり大変大きなものではないかと思えます。

内容は多岐にわたり、一人の音楽家が(古楽などというジャンルも、そしてそれに対する一般の関心も皆無であった時期に)歴史的考察、音楽様式や解釈の問題、作曲家・作品論、楽器、ひいては美学的考察、文化論に及ぶ広範な知見を披露しているのは驚くべきことと言えるでしょう。

確かに今日の古楽の研究や認識の水準からすれば不備や不正確な部分も当然あります(例えば、「フランスとイタリアの音楽」と題された一章で、「1738年に歌われたテレマンのモテットを含めると、以上がフランス人の知っていたドイツ音楽のほぼ全てだった」と記していますが、テレマンの傑作パリ四重奏曲の素晴らしさに感嘆したフランスの音楽家達によって

テレマンは、この年の前後にパリに招かれており、モテット以外の彼の作品も18世紀前半には知られていました)が、それが不正確であると今日の我々が判断できるのも、彼女が現れて古い時代の音楽に対する様々な関心を喚起し、啓発に努めたからに他なりません。

またこの本には同時代の作曲家に対する彼女のコメントも載せられており、これまたなかなか興味深い内容で貴重な記録・証言となっています。

一例を挙げますと、プロコフィエフの《悪魔的暗示》をラジオで聴いた彼女は「お話にならないほどくだらない。(中略)わずか数小節のクーランの曲には、プロコフィエフらの齷じの中にある以上の絶望と悲哀がある」と述べて憚りません。

当然、この曲から異なった印象を受ける人も多いかと思いますが、19世紀の音楽的伝統の中で培われた彼女の感性からすると、プロコフィエフのモダンでパーカッシブなピアノの響きは、粗野で暴力的?と聞こえたに違いありません。

そういった部分も含めて、ランドフスカという卓越した音楽的個性が何を考え、何を感じて音楽と向き合っていたかが、彼女のプレイエル製チェンバロによるデビューからほぼ一世紀を経た私たちにも非常にヴィヴィッドに伝わってくることに、驚きを禁じ得ません。

皆さんも、この先達の残した稀有の記録を、是非一度纏いてみませんか?
(正会員 岡田龍之介)

🎹 事務局から皆様へ

いつも協会の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。事務局からのお願いです。
メールアドレスの変更・住所の変更等ございましたら、お手数ですが事務局まで御一報下さい。
また、日本チェンバロ協会へのご要望なども是非お寄せ下さい。(連絡の宛先は、下記の事務局の情報を御参照下さい)
より充実した協会運営を目指して参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

(日本チェンバロ協会 事務局)

🎹 広報も筆の誤り

チェンバロを使用したコンサートでは、チェンバロという楽器の説明をしなければいけない場面があるかと思えます。ピアノと比較させながら、発音の仕組みや、タッチと強弱の関連など、分かり易く解説されていることと思えます。それは、楽器に興味を持っていただき、バロック音楽への関心を高める絶好の機会といえるでしょう。解説を盛り上げて終わらせたい場合には、次のような小話を添えると良いかも知れません。

「バロックを代表する有名な作曲家といえば、J.S.バッハでしょう。バッハは1685年に生まれ、1750年に亡くなりました。実は日本にも、ほぼ同じ時代を生きた有名人がいるのです。それは1684年に生まれ、1751年に亡くなった徳川吉宗です。そう、皆さんも御存知の“暴れん坊将軍”は、かのバッハ大先生とほぼ同じ時代を生きていたのですから、なんとも驚きですね。そんな訳で、ヨーロッパでチェンバロが流行っていた頃、どうやら日本ではチャンバラが流行っていたようです」(広報部)

会報第3号 2014年9月15日発行 発行人:小林道夫
編集:広報委員会(及川れいね、加屋野木山、高橋ナツコ、廣澤麻美、山縣万里)
運営委員会(大塚直哉)



日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

日本チェンバロ協会事務局
住所:〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階
電話:080-9661-8196(火曜日 10時~17時に対応)
メール:japan.harpsichord.society@gmail.com
ホームページ:http://japanharpsichordsociety.jimdo.com